

## 車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：島自治会

開催場所：夢づくり会館

開催日時：平成 28 年 10 月 26 日（水）19 時 00 分～20 時 50 分

参加者：自治会側【地域住民の方 41 人】

市側【染谷市長、牛尾理事、鈴木市長戦略部長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、鈴木金谷北地域総合課係長】

### 内 容

#### ① 鈴木自治会長あいさつ

- ・高品会長から今年 4 月に自治会長を引き継いだ。半年が経過し、自治会活動を運営できているのは島自治会の皆様の御協力あつてのものである。感謝申し上げます。
- ・今日は忌憚のない御意見をいただき、島地区、島田市全体が良くなるような車座トークとなることを期待している。
- ・島地区の人口は 1,700 人余、戸数は約 475 戸、世帯数は 611（特養を含む）、75 歳以上は 209 人、中学生以下が 208 人、五和地区の中では高齢化が進んでいると思うが、島地区はそれほど高齢化は進んでいないと思っている。
- ・五和小学校の児童は 410 人余、その 4 分の 1 の児童が島地区の児童。非常に活気がある地域ではないかと思っている。
- ・旧金谷町では金谷東町について 2 番目に人口が多い自治会である。
- ・島自治会は、安心、安全、清潔なまちづくりをしたいと考えているので、これからもよろしくお願ひしたい。
- ・今日は色々なディスカッションができればいいと考えている。

#### ② 市長からの市政報告

##### ■島自治会の人口、世帯について

- ・島自治会の 9 月 30 日現在の世帯数は 611 世帯、人口は 1,725 人で、高齢者人口（65 歳以上）は 540 人、高齢化率は 31.3%となっている。市の平均が 29.5%、市の平均とほぼ同じとなっている。15 歳以下の人口は 239 人で人口に占める割合は 13.6%となっている。市の平均は 13.8%なのでほぼ平均的な数となっている。
- ・島地区はこれからの金谷地域の中心として発展していく地域となってきている。（後ほど個別の事業の中で触れている。）

## ■地域の抱える課題等について

- ・島田に限らず、日本中で今、一番課題となっていることは人口減少。
- ・一般の市民の方からのメールで、市長は若い人を育て、大切にしていくための施策を進めているが、それは高齢者をないがしろにするものかというものであった。
- ・今は60代以上の方が中心になって、地域の行事や安心・安全を守ってくれているが、若い人に引き継いでいくためには、高齢者の知恵や経験を次の世代に伝えていくことが必要。人材育成が必要ということである。高齢者が安心して暮らしていただくには、跡継ぎが増えていかなければならないということ。
- ・地域のお祭りや自治会活動はほとんど60代の方が中心になってやっけていただいているのではないか。人材を育てていかなければ我々の老後も安心とはいえない。
- ・若い人たちの人材育成、若い人たちが声を出せば、行動を起こせば変わっていくことを実感できるまちをつくっていききたい。
- ・団塊の世代が全て後期高齢者になる2025年から2030年までの間に高齢化率が4割を超え、2030年から人口自体が減少していく。
- ・10万人の人口が何にもしないと6万人くらいになってしまう。このために地方創生総合戦略に基づく施策に取り組んでいる。
- ・税収も減っていった、高齢者が増え、福祉、医療、介護の経費は増えていく、教育にも力を入れなければならない。
- ・C型肝炎の薬は一錠8万円で、3ヶ月服用しなければならず、3ヶ月で720万円掛かる。でも、国民健康保険があるから、個人負担は月2万円しかかからない。オプジーボという肺がんの薬が新薬の認証を受けたが、1年間薬を飲む必要があり、1年間で3,500万円の薬代が掛かる。これも、個人負担は月2万円しかかからない。国民健康保険の掛金が高いと言われるが、こうした薬が開発され認証を受けると、掛金も高くならざるを得なくなっている。このため、医療制度改革では薬価の見直しも検討している。
- ・かつては、土地の値段が上がり、給料も上がり、全てが右肩上がりだった。こういう時代だと、人生設計（老後についても）ができた時代であった。
- ・明日は今日より良くなるといった（高度成長期）と違って、いつリストラになるかもしれない、給料も上がるかわからない、土地が値上がりする目途がないことに加え、空き地や耕作放棄地が増えていく時代にあって、公共施設も合併によって3倍近くになっているものもあり、維持修繕の経費も多く掛かっている。
- ・先行きが不安なので、年金受給者の方でさえも老後の資金を貯めている。
- ・今、都市は拡大、発展、拡散していく時代（20世紀型）からコンパクト（集約）な都市にすることが望まれている。高齢者の方が集って暮らすことで助け合って安心して暮らせるであろうし、行政も行政効率を上げていくことができる。
- ・こういう時代の行政のあり方は今までと同じではやっていけない。
- ・市は都市経営する会社であり、顧客は市民。その市民が安心して暮らせる「しまだ」をつくっていくためには、会社の経費をコストダウンする努力、職員の意識改革と、職員一人当たりの生産性を上げていくことにも取り組まなければならない。

- ・地域ができることは地域でやっていき、行政がそこに最大限のサポートをしていく時代となっている。
- ・特に次世代に借金を残して、次世代の皆さんがやりたいことができない都市は魅力がないといえる。
- ・右肩上がりの時代は、市長は自分の任期で何をやるかということが、例えば市長がやったこと、市長は何を造った、市長はこの道を造ったなどというように。しかし、これからの時代の市長は、10年先の島田のために、今何を選択するかという、そういうことが今の私の役割だと思っている。自分のときだけいいのではない。そこのところは完全に、時代が変わったと私は思っているので、10年先にここに暮らす人たちが豊かに暮らせる社会をつくるために、今自分は何を判断するかということが自分の仕事だと思っている。その時代の変化をまずご理解をいただきたいと思います。
- ・地域の助け合いの事例として、ある地域では、500円の券などを活用して、地域の人達で助け合う生活支援のサービスを行っていく計画がある。元気な高齢者はサービスを提供し、たとえ500円でも収入になる。
- ・高齢者が、公民館で放課後児童クラブを行っているところもある。
- ・市がワゴン車と保険とガソリンを負担して、地域の足を確保するために、地域がボランティアなどの運転手をお願いしていくことも計画している地域もある。このように、地域の課題を自分たちで解決していくことを行政として最大限支援していく。
- ・行政も一生懸命やる。「あれもやります。これもやります。」ということをお願いしたいが言えない状況であることも事実である。
- ・そういうことができる地域が、安心して暮らせる地域として選択してもらえる地域となる。
- ・年金暮らしの方、一人暮らしの高齢者も多くなってきていて、一日の食費を1,000円と決めて暮らしている方もいる。
- ・高齢者、障害者、子どもたちが安心して暮らしていける街をつくっていくことが必要。
- ・できないことはできないと正直にお伝えすることも必要だと考えている。
- ・公共施設は276施設663棟の建物がある。この施設に係る修繕費の費用はこれからの40年間で2,515億円かかる。年間63億円にもなる。今は維持管理・更新に年間36億円かけているので、その1.75倍となる。このことから、施設のあり方を検討をしていかななくてはならない。
- ・長寿命化と言って、徐々に更新していく方策に取り組んでいる。一つの施設に多機能を有したものにしていける必要もある。
- ・今後40年間で公共施設を2割くらい減らしていかなければならないという試算も出ている。
- ・国も県も道路などを造る予算は15年位前に比べ約3分の1程度しか確保できなくなっている。今までは、新設の道路を造ってまちを拡大していったが、これからはそういった道路などをどれだけ長持ちさせるかという長寿命化に経費を配分しなければならない。
- ・島田市の道路延長は約1,180km、橋は1,154橋で、5年に一度の点検が法律で決められている。すでに、新しいものを造るよりは維持（長寿命化）していくことがメインとなっている。新たな道路をつくるよりも長寿命化する時代となっている。
- ・このように、今までの行政とまったく違う課題に向き合いながら市政を運営している。
- ・皆さんの生活を守りながら、一方で、移住定住施策、企業誘致の施策、市内で操業する企業が一人でも多く雇用できるような施策に取り組む必要がある。

### ■賑わい交流拠点の整備について

- ・NEXCO 中日本、大井川鐵道、JA 大井川、島田市の4者が連携し、新東名高速道路島田金谷 IC 周辺に、地域の特産品を集めた販売所や、カフェやレストランなどが入る施設を建設する予定。売り場面積が今のところ 1,400 ㎡ということで、日本一となるマルシェとなる見込み。大鐵は新駅建設も検討している。
- ・また、市は、新東名の下に、国の占用許可をとって、約 1,000 台弱の駐車場を造る予定となっている。(今後、新東名のバス路線を見据えた計画でもある。)
- ・基本計画の内容については、11 月から 12 月ごろにはメディア向けに発表できる段階になっている。
- ・国一バイパスの 4 車線化に伴い、大代インターチェンジの改良も必要になると JA 大井川五和支店の移転も必要になるのではないかとと思われるので、JA の視点の交流拠点の中に組み込むことも考えている。
- ・奥大井につながる観光の拠点であり、大井川流域の農産品をここに集めて売る。
- ・最短で平成 30 年 5～6 月に着工できる計画で頑張っている。
- ・最近国土交通省も「パークアンドライド」といって、一端料金所を降りても、通過したときの料金と変わらないシステムも考えていることの報道もあった。こうしたことも視野に入れていきたい。
- ・首都圏からの観光バスの往復 500 km の位置として、交流拠点の位置あたりになるので、バスを降りてつながる観光の拠点とすることに加えて、空港周辺のこの地域にも交流人口の増加につながる導線を考えていきたい。

### ■新東名島田金谷インターチェンジ周辺の開発について

- ・84ha を内陸フロンティア地域として開発することを考えている。農振除外ができるかということと、大井川土地改良区の受益地になっていることへの対応という課題がある。
- ・何とか今年度中に目途をつけて、にぎわい交流拠点とともに、企業誘致を進めていきたい。現在、企業に戸別訪問しながら頑張っている。
- ・(賑わい交流拠点、新東名島田金谷インターチェンジ周辺は、) 島田の活路を見出していく地域である。
- ・牛尾山の開削が平成 30 年度に事業が終了する。川幅が広がることによって、洪水に危険性も少なくなることからそのストック効果を国への要望時にも訴えていきたい。ただ単に造ってくださいと要望してもその要望は通らない。その道路を造ることによって、雇用の創出や渋滞の解消、企業の進出数など数値で効果を表さないとならない。(ストック効果を示していく必要がある。)

### ■その他金谷地域への取り組み

- ・国道 1 号バイパスの 4 車線化、菊川インターのフルインター化などは早期に完成できるよう、継続して予算の確保も含めて要望をしていく。
- ・御前崎港⇒菊川 IC⇒大代 IC⇒新東名という大災害時における命の道がつながるといって国への要望を積極的に行っている。
- ・国道 473 号の拡幅工事についても、県に要望をして事業化に向けて動いているところである。

- ・藤枝バイパスの4車線化についても、島田バイパスの4車線化に伴って、その先の道路の整備によって円滑に車両が通行できるよう国への要望を行っているところである。
- ・何度もお聞きしている言葉の中に、「合併しても何もいいことがない。」がある。苦悩の10年間だったと言う声も何度も聞いている。
- ・市と町であると、直接、住民に掛けるお金の規模が違ってくる。一人ひとりにあたるお金の額から言えば、サービスが悪くなったと言われるかも知れないが、小さな規模ではできないインフラの整備もできていくようになる。

#### ■金谷庁舎について

- ・金谷庁舎は、合併する時には耐震補強して使うということを聞いているが、前の市長のときにそれはしないということで、支所を2箇所整備した。
- ・金谷庁舎のエアコンが昨年壊れ、修理費に6,000万円もかかるということだったが、耐震性のない建物に、それだけの当市はできないということで修理はしていない。
- ・金谷庁舎については、現在、おおりに入っている社会福祉協議会が市民会館の向かい側に移転する。(11月上旬)。社会福祉協議会が出たスペースに教育委員会を移転する計画である。(年明け)耐震性のない庁舎での業務には課題もあること、しかもあの施設を耐震化することは莫大な費用がかかる。さらに配管等の設備の老朽化が進んでいる。
- ・こうした中で、一度おおりに教育委員会を移していく。金谷庁舎の機能(整備)については内部で検討しているが、一つ方針が決まっていることは、南支所、北支所を今の金谷庁舎の跡地に一本化させていただきたいということ。旧金谷町と旧五和村が合併した融合の地に金谷庁舎があるという点に加え、行政効率も考慮するとあの地に支所を設けていきたい。今の支所の施設は、地域貢献に値するような施設としての活用を考えていきたい。
- ・金谷庁舎の跡地には民間活力を導入して複合施設等を検討したい。療養病床の施設も検討したが、国の医療制度改革等の内容などから、今後療養病床で良好な経営(儲け)ができるかどうか不透明な部分もあってその検討は断念した。

#### ■市民会館について

- ・現在、解体は終了して更地になっている。今年度中には舗装をしていきたい。帯桜があるところは、少し広めの帯桜パークのようなものをつくって市民の憩いの場やイベントの場として活用してもらえるようにと考えている。当面の間は、駐車場、賑わい広場、中心市街地の防災の避難地として使っていく予定。
- ・市民会館は県内でも早く建設され、音響設備など立派な建物であった。私たちの誇りでもあった。早くできた分、老朽化も早く耐震性もないことから、今回解体するという決断をした。(年間のホールの稼働日数は30日、リハーサルも入れても60日程度となっている。)
- ・これに対して、同じものをつくるとなると、70~80億円、100億円という事業費になることから、病院建設をまず優先して行うことを選択した。病院に目途が立った段階で、市民会館と市役所(築53年)、おおり(築34年)、建設検討委員会を立ち上げて(病院の設計に目途がたった段階で立ち上げてい

きたい。)、周辺を一体とした整備について検討する。

- ・どこの街にも、美術館、博物館、図書館、大きなホールがある時代ではなくなっていることはご理解いただきたい。
- ・広域で公共施設の利用を考える時代となっている。志太3市では広域での相互利用（管理）について検討をしている。

### ③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■にぎわい交流拠点について</p> <p>新東名「島田金谷」インター付近にできる、通称「ふれあい広場」について、どのような経営形態か？また、集客力及び将来性はどうか？</p>	<p>●市長市政報告「■賑わい交流拠点の整備について」を参照。</p>
2	<p>■水路橋について</p> <p>路橋を拡幅し2車線にすれば川根温泉と併せ、集客力がアップするのではないか。</p>	<p>●大井川水路橋は、国営大井川用水農業水利事業の中で老朽化に伴い、平成21年3月に架け替えられたものである。</p> <p>水路橋が架け替えられる際、北部地区への交通量増加と往来する橋が無いことから、水路の上部を対岸方面への通行路として他目的使用（農林水産省から借用）しているものである。</p> <p>大井川右岸（菊川市、御前崎市、掛川市、袋井市）の農業用水を供給する目的で整備されたものであり、その目的と構造上、拡幅はできない。</p> <p>直近に大井川を挟み、県道焼津森線があるが、大井川に橋りょうが無く分断されていることから、大井川に橋りょうを整備するよう、県に要望活動を継続している。</p>
3	<p>■ゴミ集積所について</p> <p>島地区では、今年度ゴミ集積所を1ヶ所42万円掛けて新設しました。旧金谷町時代は、費用の半額を補助してもらっていました。カラス等の被害で周辺の住民に迷惑がかかります。清潔な地区づくりを目標にしており、補助金が出る制度を考えてもらいたい。</p>	<p>●現在、ごみ集積場の維持管理については、全て地元自治会等をお願いしている状況であり、地元の皆様にご苦勞をお掛けしていることは承知している。旧金谷町時代には、ごみ集積場への補助制度があったが、ごみ集積場を新設できるスペースがある自治会ばかりではないため、合併時の事務すりあわせのなかで、補助制度を廃止したと聞いている。</p> <p>どこの自治会も積立金の中からゴミ集積場の維持管理をしていただいている状況であり、新たな補助制度については、現状では困難であると考えている。</p>

4	<p>■水路の管理及び整備について</p> <p>生活用水路と農業用水路と一緒になっている。ドブさらいの時、大変苦労している。少子高齢化している現在、高齢者世帯ではドブさらいができない組も出る可能性がある。</p> <p>水路の法面にある雑草及び水路の下にある泥の除去をお願いしたい。その対策として、法面をコンクリート、水路をU字溝にしていきたい。</p>	<p>●急速な高齢化の進行により、今まで地域の皆様が行っていた様々な行事や草刈等の作業が難しくなってきたとお声を伺うことが多くなってきているが、市においてもそのような要望書の全てをお受けして対応をとることは難しく、従来どおりそれぞれの地域に密着した施設の管理については、出来る限り皆様の手で愛着を持って実施をしていただきたいと思います。雑草及び泥の除去、法面等の改修については、自治会を通じ要望書を提出いただき、現地を確認したうえで対応させていただく。</p>
5	<p>■雇用の促進について</p> <p>地場産業である茶業が低迷し、雇用（特に若者）の場が減少しています。「ふれあい広場」も雇用推進の場所となります。また、農振地区の解除を積極的に働きかけていただいておりますが、雇用推進の場の確保というところで、企業誘致等考えていますか？</p>	<p>●現在、新たな工業用地として新東名島田金谷インターチェンジ周辺地区の整備に向けて取組んでいる。地元の皆様にも御協力いただき、協議会をつくってゾーニングを設定し、整備に向けて検討をはじめている。</p> <p>若者の雇用の確保や定住人口の増加、市内中小企業のビジネスチャンス創出に繋がる裾野が広い企業誘致を積極的に進めていきたいと考えている。</p> <p>また、島田市産業支援センター（おびサポ）を4月12日に開設した。地元の中小企業に皆さんへの創業、起業支援、補助金などの相談などに応じている。主に島信の支店長クラスが相談に応じている。相談時間は1時間くらいで、年間1,200件を想定していた。この想定件数を4か月足らずで超えている。近隣市町からも相談者が来所している。あらゆる相談に対応できるように、事前予約によって、その相談内容に応じてスタッフを用意する配慮もしている。民間からセンター長を置いて、島田市、島田信用金庫、商工会議所、商工会の4者の連携の中で、それぞれが職員を出して、そこで島田市内の企業の皆様の支援をしている。</p>
6	<p>■支所機能について</p> <p>市長の話は、国、県の話であって、市の事業についての話がなかった。金谷庁舎に支所を統合することは大賛成である。</p> <p>当時、支所を2箇所設けることに、金谷選出の議員で反対したのは2人だけ。行政効率が悪いことから私は反対した。年2,000万円程度の経</p>	<p>●支所機能については先ほど申し上げたとおりである。今の支所の活用については、今後、地域の皆様とご相談していきたい。</p> <p>金谷地域で、今年度予算化されている事業は、横岡新田牛尾線改良事業、番生寺線改良事業、島竹下線改良事業、牧之原猪土居線改良事業、国道停車場線改良事業、牧之原中講線改良事業、菊川地区道路整備事業、谷北線</p>

	<p>費が削減できるのではないか。10年で2億円なら（金谷庁舎）の建設費が賄えるのではないか。（そんな大きなものでなくて良い。）</p> <p>その計画は是非実行していただきたい。</p>	<p>改良事業等道路事業など12路線となっており、金谷地域に相当額をつけている。市内全域で公平性を保つ観点から、道路整備・改良の地域ごとの状況をふまえつつ進めている状況である。</p>
7	<p>■農振の除外について</p> <p>この地域は農振がかかっている土地が多く、除外が難しいと思うが、そのテクニックは何かあるのか。</p>	<p>●受益地を外すことにも裏技があると思うが、企業秘密のところもあってお話できることばかりではないが、今年は農振の5年に1度の定期除外の年となっている。それ以外は、個別除外での対応となることから、必死になって除外に向けて取り組んでいる。</p> <p>都市的土地利用するには農振がないほうがいいが、かつて島田は農業が良くて農振をかけてくれと要望して、農振をかけ土地改良や水路の整備を補助金でもらってきた。今、農業が低迷して農振を除外してくれということが難しいことは今までの経緯を踏まえた中でご理解いただきたい。</p> <p>国土交通省の都市的土地利用を推進することと、農業受給率をこれ以上下げないという農林水産省とのせめぎ合いの中で、農振の除外は難しい案件であることをご理解いただきたい。</p>
8	<p>■大鐵について</p> <p>S Lフェスタやトーマス号の運行で賑わってはいるが、本来の公共交通（地域住民の足）としての役割が果たせていないように感じる。</p> <p>例えば、金谷駅から千頭駅まで通しで運行しているために本数が減ってしまっている。天竜浜名湖鉄道でも1時間に3～5本程度は運行できている。朝晩に金谷～五和を往復するなどして本数を増やすことはできないか。便数が少ない中では、賑わい交流拠点へ行く人も少なくなってしまうのではないか。子どもが通学で利用しているが、雨の日には時間が合わなくて金谷駅まで車で送迎している。金谷駅が混雑するので、駅周辺の整備も何とかならないかと思う。（土地的に厳しいと思うが。）</p>	<p>●3ヶ月に1度程度は大鐵の社長とお話できる機会を設けているので、その際に、このお話をさせていただきたいと思う。大鐵は観光鉄道として儲けたお金で公共鉄道の赤字部分を埋めているということになっている。午後子どもたちが変える時間帯、昼間4時間運行がないことについては、増便をお願いしている。公共鉄道の役割をしっかりと果たして欲しいというご要望については社長にお伝えしていく。</p>
9-1	<p>■内陸フロンティアについて</p> <p>先ほど雇用の確保の話があったが、開発する地域にIT企業を誘致したらどうか。法多山の周辺で大阪からIT企業を誘致して、2、3ヶ月</p>	<p>●高速交通の結節点のこの金谷に内陸フロンティアとしてIT企業にきていただくことはウエルカムである。ただ、この島田金谷インターチェンジ周辺の強みは、新東名のインター周辺で、これほど平地が広く、大井川の</p>



	<p>操業してもらい取り組みが紹介されていた。ここは日本の中心地でもあることを武器に企業誘致されたいかがか。</p>	<p>伏流水による良質な水があるところは他にない。150m間隔で井戸が掘れる。環境、雇用が確保できる、伏流水、地盤がいいといったことが強み。全国的なアンケート調査結果では 20 社ほどが出てもいいという結果が出ているが、企業は浮き沈みがあるため、必ずしもその企業がその時になって進出してくれるとは限らない。その逆も然り。スピード感を持って取り組んでいく必要がある。</p>
9-2	<p>■賑わい交流拠点は、焼津のさかなセンターをイメージしていると思うが、今、あそこは衰退気味。周辺に 20～30 万人都市がないと成功しないと思う。そういうものを造るよりも、IT企業などの企業誘致が必要で、日本の製造業は東南アジアに出ていってしまう懸念もある。大都市圏の真ん中でもあり医療センターを造ることの働きかけをしたらどうか。</p>	<p>●ご意見として承る。焼津のさかなセンターのようなものをイメージしているのご意見については、そういうものをつくる考えはない。遠くのお客様も寄ってみたいと思わせる施設としていきたい。</p>
10	<p>■市民会館について 今、大きなホールが残っているのは焼津の文化センターだけとなっている。藤枝も中規模（定員 550 人）。おおるりも中規模(660 人)。イベントをやってもペイできない。島田と藤枝で相談して、東町あたりに共同で造ったらどうかと思う。島田単独では財政負担が大きいと思う。藤枝も人口がある程度あって、あの程度のホールでは市民は納得しないのではないか。</p>	<p>●今、焼津の文化センターと菊川のアエルを使っている。高校など今まで市民会館のホールを利用していた団体には、補助金 50 万円を交付して、その施設の利用料、機材等の運搬費などに充ててもらっている。まさに広域で考えていかなければいけない時代にあって、志太は一つと言うことで、観光DMO、道路整備、公共施設の共同活用などについて組織を立ち上げて取り組んでいる。教育委員会では教員は使用するフォーマットを統一化して、域内の異動時にも教員の事務負担の軽減にも努めている。</p>
11	<p>■コミュニティバスについて 利用が少ない気がする。島地区から市民病院に行く場合、高齢者の方は不便なことを良く聞く。そこで、タクシーなど少人数の車両を頻繁に走らせるなどして、高齢者にはその運賃を助成する方法によって、病院にかかりやすいようにしていくと便利なのではないか。</p>	<p>●御提案いただいた内容は、私も前々から思っていた内容である。コミバスの路線の変更で使い勝手が悪くなったと言うお声を聞いているので、来年見直しを検討しているところである。大きな路線の変更等は陸運局の許可なしにはできないため、申請から許可までは約半年かかる。大きな変更については再来年になってしまうかもしれない。 タクシーの件については、タクシーの協会とお話したが、乗り合いになると 4 人乗せても料金は変わらない。月曜日の朝のタクシーの利用率は良く、市民病院に行くお客さんが多いと聞いている。これを乗り合いのタク</p>

シーにしてしまうと、タクシー業界の収入が減ってしまうため協力は難しいとのお話をいただいている。タクシーの利用券の補助については、例えば、片道市民病院まで 1,000 円とすると往復で 2,000 円。月一回で年間 24,000 円。75 歳以上の高齢者（15,000 人）に補助すると 3 億 6,000 万円になる。コミュニティバスの運行経費が年 2 億 4,000 万円。75 歳以上の方と限定しても 3 億円以上の経費がかかる。75 歳以上とするならば、それを福祉施策として 3 億円掛けてもやると言う市民の皆様の声であれば、他の経費を削ってでもやる。75 歳でも健康な方もいれば、60 歳でも毎月病院に行かなければならない人もいて、その公平性をどう担保するかと言う課題もある。そうしたことから、先ほど申し上げたとおり、地域内で車を走らせて、コミバスのところまでの足を確保していただくような地域の取り組みをお願いできればと思う。

給食費をタダにして欲しいという意見が議会からも出るが、光熱費、人件費、運搬費、施設費も公費で賄い、材料代だけをいただいている。その材料代は年間 4 億円を超える。この材料代を公費から支出すれば、その分の事業を削らなければならない。4 億円で高齢者へ事業など多くの事業ができることから、材料費だけはご負担をいただいている。

何を優先するのかということを決めていかなければならない中で、市民の皆様に説明しながら、御理解をいただきながらやっていきたいと考えている。

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子

